

令和2年度がん教育総合支援事業 がん教育推進校実践報告

北海道穂別高等学校

学級数：3学級 生徒数：40人

【実践テーマ】

がんについての正しい知識を習得し、その予防や対処法についての実践力を育成する。
また、健康と命の大切さに気づき、主体的に考え、共生できる態度を育成する。

授業実践経過

○対象学年：全学年

○教科等：科目「保健」、科目「家庭総合」、科目「現代社会」、
科目「生物基礎」

月	教科（学年）	内 容
9月	家庭（第1学年）	・ライフステージとそれぞれの発達課題/将来の自立に向けた意思決定
	保健（第1学年）	・現代におけるがんの予防と回復/生活習慣病、予防と回復
	保健（第2学年）	・我が国の保健・医療制度/北海道の保健・医療機関の活用
10月	現代社会（第1学年）	・人間の尊厳/誰もが平等であるとは、どういうことか/差別のない社会/共生
12月	保健（第2学年）	・健康を支える健康づくり
1月	生物基礎（第1学年）	・細胞とエネルギー/DNAについて
	学校行事（全学年）	・がん教育講演会 「『がん』といわれてどうした?～生き返った、じいちゃんの話～」
2月	保健（第2学年）	・生涯を通じる健康に関わる事象/生活の質の向上（QOL）
	家庭（第2学年）	・持続可能な社会/自分が置かれている状況の中で、実現可能なこと
3月	生物基礎（第1学年）	・遺伝情報とゲノム/遺伝子とゲノム
	現代社会（第1学年）	・2学年合同授業
	家庭総合（第2学年） 合同授業	

授業実践（合同授業）

○対象学年：第1・2学年

○教科等：現代社会（第1学年）・家庭総合（第2学年）

【単元の目標（現代社会）】

- ・がんのメカニズム、治療、後遺症や障がいの内容を知り、自他の生命や人格を大切にしながら、がん患者と共に生活をするための方策を探る。また、ノーマライゼーションやバリアフリーの意識を高める。

【単元の目標（家庭総合）】

- ・がんのメカニズムを知り、がんと生活習慣、特に食習慣との関わりを知り、健康を維持・向上するための食・生活習慣について理解する。また、将来の一人暮らしや家族との生活に備え、食生活の充実を模索する。

【学習の流れ】

- ・オリエンテーション（各学年）：学習内容の把握、がんの現状を知る、目標の設定
- ・グループ学習（各学年）：文献調査、まとめ、原稿作成
- ・公開授業：グループ発表（2学年合同）

【グループごとの発表テーマ】

- ・第1学年
「子宮がんに向き合っていくために」 / 「乳がんに向き合っていくために」 / 「肺がんになった人が心地よい生活を送れるように」
- ・第2学年
「がんと共に生きる生活の中で気を付けること」 / 「現代人の生活とがん」 / 「がんと食事の関係」

外部講師との連携

- 対象学年：全学年
- 教科等：特別活動（学校行事）
- 講師：戸根谷 法雄 氏（がん経験者）

「『がん』といわれてどうした？～生き返った、じいちゃんの話～」



- 「無病息災」から「一病息災」となっている現代社会の中で、健康と命の大切さに気づき、共に生きるとはどういうことかを主体的に考える。

【講話の内容】

- ・がん患者としてのエピソード
- ・実際に「がん」と診断されたら・・・
- ・安易にかけて欲しくない言葉
- ・がん患者としてできること
- ・消えることのない不安、死の恐怖

～記述式アンケート結果より～

- 「万が一、身近で大切な人が「がん」と診断されたら、あなたはどうしますか？」
 - ・安易に簡単な言葉はかけないようにしよう
 - ・がんばって助けるのではなく、優しく寄り添って助ける

○ 講師へのメッセージ

- ・がん患者になると生活の質が落ちたり、人と関わる機会がなくなったりするなど、普段あまり聞くことができないことを聞き、改めてがんの怖さを知ることができた。自分も生活習慣や毎日を大事に生活しようと思う。
- ・1人でも信頼している人がいるだけで、こんなにも変わるのだと思い、家族や今、自分の周りにいてくれる人を大切にしていこうと思った。そっと寄り添えるような存在になれるよう、相手のことを考えて行動できるよう、がんばりたい。

広報・啓発

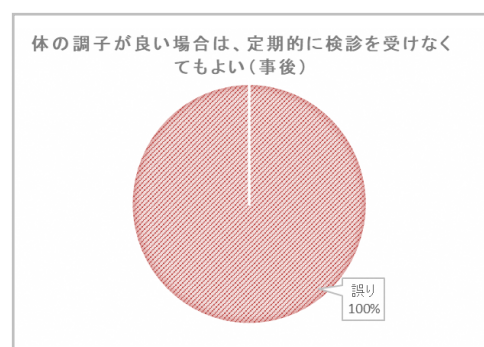
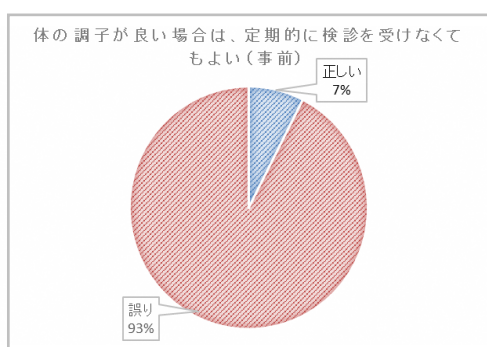
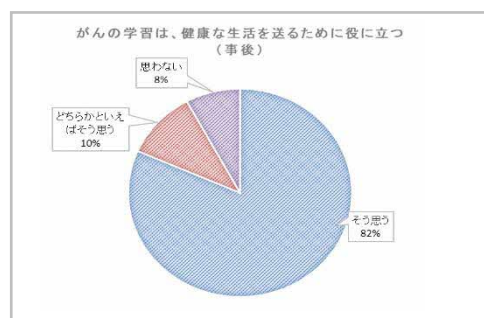
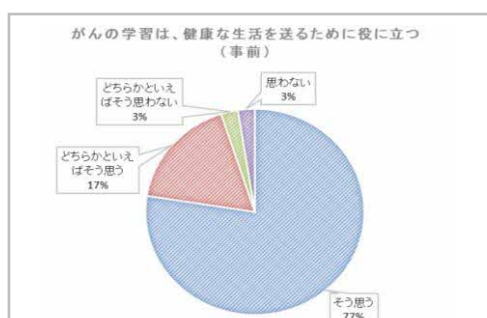
○「保健だより」を活用した全校生徒への啓発

- 「保健だより」を活用し、がん教育講演会の内容等をはじめ、「がんの主な原因」「がんの予防」「早期発見と検診の大切さ」「がんの治療」などについて掲載し、啓発を図った。



成果と課題

○ 生徒のアンケート結果



《成果》

- 講演会では、講師の実体験をとおして「がん」という病気の怖さの本質を聴くことができ、生徒にとって非常に有意義な機会となった。また、人の力強さや生きる姿勢などのお話を聞き、これからの社会に歩み出していく生徒一人一人にとって、非常に有意義な機会となった。
- 日常の学校生活においても、各教科指導はもちろん、養護教諭による保健だよりでの情報提供や啓発により、これまで遠い存在であった「がん」という病気を知ることとおして、生徒が自分自身や大切な人の命や健康について再認識することができた。

《課題》

- 今後も教科指導等の日常の学習活動の中で、がん教育を継続するため、各教科担当者ががん教育を意識して実践することができるよう、研修を充実させる必要がある。
- 本校は小規模校であるため、次年度以降もがん教育を効果的に指導をする場合、外部講師等を派遣するための費用については、関係機関と連携する必要がある。